

国際子ども図書館開館20周年記念展示会

平成を彩った 絵本作家たち

Japanese Picture Book Authors of the Heisei Era (1989-2019)



International Library of Children's Literature

国立国会図書館 国際子ども図書館



平成は、1989年1月8日から2019年4月30日までの約30年です。この時代の子どもの本を彩り豊かにしたものの一つとして、絵本作家、特に文と絵の両方を手掛けることで、作品表現に磨きをかけた作家たちの存在を挙げることができます。国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」では、平成に活躍した日本の絵本作家35名を紹介し、それぞれの作家が生み出した絵本とともに、平成という時代を振り返ります。

昭和の影響を受けつつ、平成ではより一層新たな表現が追求され、絵本作家の個性や活動、それぞれの作品も、多種多様なものになりました。この展示会を通して、現在の令和にもつながる、平成の絵本の世界を感じ取ってみてください。

* 紹介する絵本作家は、おおむね、活躍を始めた時期の順に並んでいます。

昭和の名作絵本

現代の日本の絵本は、戦後の復興が進む中、1950年頃から発展してきました。いわゆる「絵本ブーム」が起こった1960年代から1970年代には、『ぐりとぐら』を始め、ロングセラーとなる名作が数多く生まれるとともに、それまでは分業されることが多かった文と絵を一人で手掛ける絵本作家が登場しました。昭和の名作絵本は、今日に至るまで、世代を超えて多くの読者を獲得してきただけでなく、現在活躍する絵本作家たちにも影響を与え、平成の絵本文化の土台となりました。



『ぐりとぐら』
ながかわりえこ、おおむらゆりこ〔著〕
福音館書店 2010(初版:1967)



『だるまちゃん と てんぐちゃん』
加古里子 さく/え
福音館書店 1995(初版:1967)



『きんぎょが にげた』
五味太郎 作
福音館書店 1982

はやし あき こ
林明子

イラストレーターとして活動中、当時の同僚で絵本作家の五味太郎の紹介により絵本に携わり始めました。『はじめてのおつかい』（筒井頼子作）など多くの物語の世界を鮮やかに描くとともに、ストーリーの創作も手掛けるようになりました。丁寧な取材と多彩な画法で、幅広い年齢層に親しまれる絵本を作り出しています。



『こんとあき』
林明子 さく
福音館書店 1989

かたやまけん
片山健

1969(昭和44)年に文と絵の両方を担当した初の絵本『もりのおばけ』を発表後、しばらくはモノクロの鉛筆画の制作を中心に活動しました。息子の誕生を機に絵本作りを再開して以降は、油彩や水彩なども取り入れ、力強く色鮮やかな作風、淡く温かみの感じられる作風など、印象の異なる絵本をいくつも生み出しています。



『タンゲくん』
片山健 [著]
福音館書店 1992

たけだ みほ
武田美穂

大学で油彩を学び、図書館勤務などを経て、1987(昭和62)年に絵本作家としてデビューしました。マーカーによる鮮やかな色遣いや、コマ割りや吹き出しなどの漫画的な技法を用いて、子どもへの共感に満ちたユーモアあふれる作品を数多く手掛けています。子ども向け番組のキャラクターデザインやワークショップにも携わっています。



『となりのせきのますだくん』
武田美穂 作・絵
ポプラ社 1991

いとうひろし

保育士の姉の^{えいきょう}影響で絵本に興味を持つようになり、大学在学中から絵本作りを始めました。1987(昭和62)年に絵本作家としてデビューして以降、絵本や幼年文学を中心とした創作活動を続けています。家族や友達、動物など、子どもに身近な存在を題材に、独自のユーモアを交えて展開される作品世界が魅力です。



『ルラルさんのにわ』
いとうひろし さく
ほるぷ出版 1990

みやにしたつ や 宮西達也



『おまえうまそうだな』
宮西達也 作絵
ポプラ社 2003

1983(昭和58)年に初めて絵本の絵を手^て掛け、その後、優しさと思いやり、愛と正義、生と死をテーマとした絵本を次々と発表してきました。太い輪^{りん}郭^{かく}線とカ^{しきさい}ラ^{えが}フルな色彩で平面的に描いたり、パステルクレヨンや色鉛筆による短い線を丹^{たん}念^{ねん}に重ねたり、絵本の内容によって描^かき分けています。近年は、国内外で読み聞かせや講演会なども行っています。

ひろし あべ弘士

北海道旭川市にある旭山動物園で、25年間飼育係を務めました。在職中にタウン誌に連載していた動物絵日記が評価され、絵本作家としてデビューしました。動物園を退職した後は、飼育してきた動物たちの生息地を訪ねながら絵本を制作しています。様々な動物の命に関わってきた経験から描^かかれる、生き生きとした絵が特徴です。



『新世界へ = To The New World』
あべ弘士 [作]
偕成社 2012

こまがた かつ み
駒形克己

グラフィックデザイナーとして日米で活躍後、^{かつやく}娘の誕生を機に、絵本を制作し始めました。赤ちゃんともコミュニケーションをとる手段として、紙の色、形、質感などにこだわった、^{しじょう}視覚や^{かく}触覚に訴えかける^{うた}独創的な絵本を数多く生み出してきました。そのデザイン性の高さから、造本作家として世界的に高い評価を得ています。



『Yellow to red = Du jaune au rouge.』
Katsumi Komagata [著]
One Stroke 2014(初版:1994)



『じんべえざめ = WHALE SHARK』
新宮晋 著
文化学園文化出版局 2013

しん ぐうすむ
新宮晋

日本の美術大学を卒業後、イタリアの美術学校で絵画を学びました。帰国後は絵画から離れ、風や水によって動く^{ちようこく}彫刻を数多く手掛けるようになり、「風の彫刻家」として世界各地で個展やアートプロジェクトを行っています。表現手法は彫刻にとどまらず、生物や地球の美しさを通して自然や環境について考えさせる絵本も数多く発表しています。

スズキコージ

独学で絵を描き続け、アートディレクターの堀内誠一との出会いを機に、絵本作りを本格的に始めました。極彩色の絵が特徴で、斬新な発想とダイナミックかつ緻密なタッチから生み出される作品は、見る者に強烈なインパクトを与えます。創作活動は多岐にわたり、ライブペインティングやワークショップなども展開しています。



『サルビルサ』
スズキコージ 作
ほるぷ出版 1991

あら いりょうじ
荒井良二

フリーのイラストレーターとして活動する中、編集者の土井章史^{どい あきふみ}と出会い、1991(平成3)年に商業出版としての初の絵本『ユックリとジョジョニ』を発表しました。明るく鮮やかな色遣いと、斬新、大胆、奔放な作風で、国内外で高く評価されています。アニメーション^{ふたい}、舞台美術、ライブペインティングなど、幅広く手が掛けています。



『ユックリとジョジョニ』
荒井良二 作
ほるぶ出版 1991



『よるのおと』
たむらしげる 著
偕成社 2017

たむらしげる

デザインの専門学校で学び、印刷会社のパッケージデザイナーとして菓子のおまけの絵本を制作した後、自作絵本も手がけるようになりました。印刷の知識や経験をいかし、インクや発色にこだわった、美しい色合いの絵本作りが特徴です。イラスト、アニメーション、漫画など、多様なジャンルで作品を発表しています。

こ ばやしゆたか
小林豊

世界各地を訪れた経験^{おとず}を基^{もと}に、異国の文化や紛争地域の現実などを伝える絵本を数多く生み出しています。特に1970年代から1980年代にかけて旅した中東・アジア諸国での体験は、『せかいいちうつくしいぼくの村』を始め、多くの絵本のテーマとして描かれています。絵本作りのほかに、子ども^{えが}の本に関する活動を精力的に行っています。



『せかいいちうつくしいぼくの村』
小林豊 作・絵
ポプラ社 1995

ふり や 降矢なな

画家である母親に絵を習い、絵本編集者をしていた叔母^{おば}の紹介^{しょうかい}で絵本作家になりました。1992(平成4)年にスロバキアに渡り、「色彩の魔術師」とも呼ばれる版画家^{わたくし}のドウシャン・カーライに版画を学んで以来、スロバキアで暮らしています。繊細^{しんさい}な色遣^{まじゆつ}いと、和洋の要素をあわせ持つ画風が特徴です。



『ちよろりととり』
降矢なな さく
福音館書店 1999



『おふろ』
出久根育 作
学習研究社 1996

で く ね い 出久根育

1994(平成6)年、月刊誌に発表した「おふろ」で絵本作家としてデビューしました。版画家のドウシャン・カーライに学び、グリム童話の絵本の絵を描くなど、活躍^{かつやく}の場を広げていきました。銅版画による繊細^{しんさい}な作品や、油彩やテンペラなどによる重厚^{じゆうこう}な作品を発表しています。現在はチェコで暮らし、スラブ民話の絵本なども手掛けています。

さ か い こ ま こ 酒井駒子

デザイン事務所勤務などを経て、絵本のワークショップ「あとさき塾^{じゆく}」に通い、1998(平成10)年に絵本作家としてデビューしました。当初は明るい色彩^{しきさい}で淡く優しい雰囲気^{ふんい}の作風でしたが、2000年以降は、黒を基調とし、明確^{めいめく}な輪郭^{りんかく}を持たない線描^{せんびよう}を特徴とする、叙情^{じょじよう}的でミステリアスな作風となりました。



『金曜日の砂糖ちゃん』
酒井駒子 [著]
偕成社 2003

逆輸入絵本

平成の時代には、絵本作家のデビューの舞台は海外にも広がりました。絵本作家の登竜門として知られるボローニャ国際絵本原画展での入選などを機に、海外で外国語版の絵本が出版され、デビューを果たす日本人作家が増えてきました。海外での活躍を経て日本に紹介され、国内で日本語版が出版されるという「逆輸入」型の絵本も珍しくありません。



『くつやのねこ』
今井彩乃 文・絵 BL出版 2010



『チリとチリリ』
どいかや 作
アリス館 2003

どいかや

美術大学在学中から装丁教室に通い、自作の絵本を制作し、公募展に応募していました。卒業後、公募展での入選をきっかけに、ワークショップ「あとさき塾」に参加し、『チップとチョコのおでかけ』で絵本作家としてデビューしました。色鉛筆や鉛筆による、やわらかく温かい色彩と繊細な絵が特徴です。

くどう 工藤ノリコ

編集者の土井章史に見出され、1999(平成11)年に『コバンツアーかぶしがいいしや』で絵本作家としてデビューしました。デフォルメされた愛らしいキャラクター、やわらかな色彩で丁寧に描き込まれた背景、それらが織りなす穏やかでユーモアあふれる作品世界が特徴です。漫画家としても活躍し、幅広く人気を集めています。



『ノラネコぐんだんパンこうじょう』
工藤ノリコ 著
白泉社 2012

しま だ
島田ゆか

デザイン会社勤務などを経て、ワーク
ショップ「あとさき塾^{じゅく}」に通い、1994(平成
6)年に『バムとケロのにちょうび』を発表し
ました。脇役^{わきやく}のキャラクターなども細かく描
き込み、絵の中でサイドストーリーを展開さ
せる手法^{とくちょう}が特徴です。〈バムとケロ〉シリ
ーズのほか、〈ガラゴ〉シリーズなども刊行さ
れています。



『バムとケロのおかいもの』
島田ゆか 作/絵
文溪堂 1999



『そらまめくんのベッド』
なかやみわ さく・え
福音館書店 1999

なかやみわ

企業^{きぎょう}のキャラクターデザイナーを経て、
時代を超えて人々に愛され続けるものを作
りたいという思いから絵本作家を志し、絵
本作家の川端誠^{かわばたまこと}や編集者の松田素子^{まつだもとこ}に学
びました。個性豊^{えが}かで愛らしいキャラク
ターを生き生きと描き、1997(平成9)年の
デビュー作に始まる〈そらまめくん〉シリ
ーズなど、多くの作品がシリーズ化されていま
す。

いわいとしお

大学在学中からコンピューターを駆使^{くし}した映像作
品を制作し、メディアアーティストとして注目を集めて
いました。娘^{むすめ}の誕生を機に、紙や木といった素材の良
さに気付き、娘^{むすめ}を楽しませるための遊びから絵本を作
り始めました。縦に開く〈100かいだてのいえ〉シリ
ーズなど、独自のアイデアが詰^つまった絵本を制作してい
ます。



『100かいだてのいえ』
いわいとしお [作]
偕成社 2008

み う ら た ろ う
三浦太郎

ボローニャ国際絵本原画展で入選後、シンプルな図形で構成された作風で海外の出版社に注目され、スイスで絵本作家としてデビューしました。子育ての経験から、アイデアと工夫に富んだ絵本を創作するようになりました。赤ちゃん絵本『くつついた』、コラージュを取り入れた『ちいさなおうさま』などの人気作はシリーズ化されています。



『ちいさなおうさま』
三浦太郎【作】
偕成社 2010



『だるまさんが』
かがくいひろし さく
プロンズ新社 2008

かがくいひろし

特別支援学校^{し えん}の教員を務めながら絵本を制作し、2005(平成17)年に50歳^{さい}で絵本作家としてデビューしました。教員時代の経験を基に、読者を元気付けるような絵本作りを追求し、2009年に急逝^{きゅうせい}するまでに16冊の絵本を発表しました。代表作である『だるまさんが』のだるまを始め、もち、布団など、日本のなモチーフが数多く描^{えが}かれています。

ブックスタートと赤ちゃん絵本

イギリスで誕生した、赤ちゃん^{あかちゃん}と保護者が絵本を介して心を通わせることを支援する「ブックスタート」が、2000(平成12)年の「子ども読書年」を機に日本に広まりました。専門家などによる選考会議で選ばれた絵本を各自治体が赤ちゃん^{あかちゃん}と保護者^{てわたり}に手渡すという事業で、現在では全国の1,000以上の自治体で実施されています。活動の広がりとともに、赤ちゃん向け絵本の刊行はますます活発になっています。



『もこ もこもこ』
たにかわしゅんたろう さく
もとながさだまさ え
文研出版
1995(初版:[1977])

たか べ せい いち
高部晴市



『あんちゃん』
高部晴市 作
童心社 2013

『きんぎょのかいすいよく』などのナンセンスなものから、『あんちゃん』などの人間味あふれるものまで、幅広い内容の絵本を手掛けています。原画の多くは茶色のボール紙にガリ版で印刷されており、レトロで温かな独特の雰囲気^{ふん い き かも}を醸し出しています。絵本が国際的に高く評価されているだけでなく、デザインやイラスト^{えが}の分野でも活躍しています。

た な か き よ
田中清代

美術大学で油彩と版画を学び、大学在学中から絵本の制作を始めました。子ども時代の体験^{てん かい}を基^{もと}に、子どもの気持ちに寄り添^そう絵本を制作しています。銅版画の力強^{ちから}くも繊細^{せんさい}な線、絵の具の温かな色遣^{づか}い、動植物をモチーフとした独特の世界観^{とくちゅう}が特徴です。版画のワークショップや読み聞かせなども精力的に行っています。



『くろいの』
田中清代 さく
偕成社 2018

い どう ひ で お
伊藤秀男



『海の夏』
伊藤秀男 作
ほるぷ出版 1991

絵画教室で子どもに絵を教えながら、個展や展覧会で絵を発表していました。過去の作品を絵本出版社の編集者に見せたことがきっかけで、絵本制作にも携^{たずさ}わるようになりました。濃^のい赤や青を好んで使い、鮮烈^{せんれつ}な色彩と力強い筆致^{しきさい}で、小さな祭りや伝統行事^{ひつち}といった日本の原風景を描いた絵本を数多く手掛けています。

にしむらとし お
西村敏雄

インテリアデザイナーとして活躍していた頃、
息子の誕生を機に絵本の面白さに触れ、絵本作
家に興味を持つようになりました。2003(平成
15)年に初めて絵本制作に携わって以降、流行に
左右されない、長く愛される絵本作りを目指して
います。アクリル絵の具を塗り重ねて描かれる、
脱力感のあるキャラクターが特徴です。



『もりのおふろ』
西村敏雄 さく
福音館書店 2008

は せ がわよしふみ
長谷川義史



『ぼくがラーメンたべるとき』
長谷川義史 作・絵
教育画劇 2007

平和について考えさせる『ぼくがラーメンたべるとき』のような、メッセージ性の強い絵本を手掛ける一方、『だじやれ日本一周』のように、ユーモアにあふれた絵本も数多く発表しています。絵本制作のみならず、海外作品の翻訳や、絵本の読み聞かせに音楽や即興のパフォーマンスを交えた絵本ライブなども行っています。

すず き
鈴木 のりたけ

新幹線の運転士やグラフィックデザイナーなどを経て絵本作家になり、様々な仕事の現場をポップで緻密な絵で紹介する〈しごとば〉シリーズなど、遊び心あふれるユニークな絵本を次々と手掛けてきました。子ども時代に強烈な印象を受けたという加古里子の科学絵本を参考に、絵だけで楽しめる絵本を制作しています。



『しごとば』
鈴木 のりたけ 作
ブロンズ新社 2009

ツペラ ツペラ
tupera tupera

かめやまたつ や なかがわあつ こ
亀山達矢と中川敦子の夫婦によるユニットです。
布雑貨制作から始まった活動が広がり、2004(平成
16)年から絵本も手掛けるようになりました。主に貼
り絵の手法で制作し、様々な紙を組み合わせ、さらに
上から絵の具を塗ることで、独自の色合いやデザイ
ンを生み出しています。読者との交流を重視したワー
クショップも全国で開催しています。



『パンダ銭湯』
tupera tupera さく
絵本館 2013



『たいふうがくる』
みやこしあきこ 作・絵
BL出版 2009

みやこしあきこ

大学在学中から絵本を制作し始め、2009(平成
21)年に『たいふうがくる』で絵本作家としてデ
ビューしました。現実と空想との間を自由に行き
来する物語を木炭や鉛筆によるモノクロの絵で描
き、光と影を巧みに表現しています。登場人物の服
のひだまで細かく描き込まれた画面が、空想の世
界に現実感を与えています。

あら い ま き
荒井真紀

虫や草花の細密画で有名な画家、熊田千佳慕に16
歳の頃から師事し、ボタニカルアートを学びました。
自然科学系の書籍の編集者やイラストレーターを経
て絵本作家になり、身近な植物の生長を紹介する絵
本を数多く手掛けています。植物をできる限り自分で
栽培して描かれる、細部にまでこだわった緻密な水彩
画が特徴です。



『たんぽぽ』
荒井真紀 文・絵
金の星社 2015

ミロコマチコ

2012(平成24)年に『オオカミがとぶひ』で絵本作家としてデビューしました。力強く大胆な筆致で、動物のあふれんばかりの生命力を描き出し、高く評価されています。国内外で展覧会を開いているほか、子ども向けのテレビ番組のアートディレクターを務めたり、ワークショップを開催するなど、幅広く活動しています。



『オレときいろ』
ミロコマチコ 作
WAVE出版 2014

震災に思いを寄せて

2011(平成23)年3月11日に発生し、社会に甚大な被害を及ぼした東日本大震災は、絵本の分野にも大きな変化をもたらしました。被災体験を題材とした絵本だけでなく、不安や喪失感に寄り添う絵本、生きる希望を伝える絵本、平穏な日常のかけがえのなさに気付かせる絵本が数多く生み出され、読者の側も、荒々しい筆致や強烈な色彩など、感情に直接訴えかけるような表現を求める傾向が強まりました。東日本大震災での経験が、これまでの絵本の主題や表現を振り返り、絵本だからこそ伝えられることを問い直すきっかけとなったといえるでしょう。



『希望の牧場』
森絵都 作 吉田尚令 絵
岩崎書店 2014



『ハナミズキのみち』
浅沼キ子 文 黒井健 絵
金の星社 2013



『もみじのてがみ』
きくちちき 作・絵
小峰書店 2018

きくちちき

個展で発表していた手製本の絵本が編集者の目に留まり、2012(平成24)年に絵本作家としてデビューしました。出身地である北海道の豊かな自然や、息子^{むすこ}の成長を見守る中でのエピソードなどを題材^{やくだう}として、躍動感のある筆遣^{づか}いと鮮やかな色彩^{あざ}が印象的な絵本を制作しています。

ヨシタケシンスケ

大学卒業後、ゲーム制作会社勤務などを経てイラストレーターとして活躍^{かつやく}する中、2013(平成25)年に刊行した最初の絵本『りんごかもしれない』が好評を博しました。日常の中のありふれた出来事^{ひやく}をユニークな視点^{おもしろ}でとらえ、発想を飛躍させて面白さやおかしさを見出しています。読者の共感を引き出すような、クスツと笑える作風^{とくちよう}が特徴です。



『りんごかもしれない』
ヨシタケシンスケ 作
プロンズ新社 2013

ヒグチユウコ

美術大学在学中から個展などで作品を発表し始め、子育てを経て、近年では画家や絵本作家として活躍^{かつやく}しています。愛猫^{あいびょう}をモデルとした猫^{ねこ}がモチーフの作品を中心に高い人気を得ているほか、グッズのデザインやファッションブランドとのコラボレーションなどでも注目を集めています。美しさとグロテスクさをあわせ持つ繊細^{せんさい}な絵が特徴です。



『ふたりのねこ』
ヒグチユウコ 著
祥伝社 2014



国立国会図書館国際子ども図書館は2020年に開館20周年を迎えました。

表紙の資料

左から時計回りに

『こんとあき』 林明子 さく 福音館書店 1989

『そらめくんのベッド』 なかやみわ さく・え 福音館書店 1999

『だるまさんが』 かがくいひろし さく ブロンズ新社 2008

『りんごかもしれない』 ヨシタケシンスケ 作 ブロンズ新社 2013

『ユックリとジョジョニ』 荒井良二 作 ほるぷ出版 1991

発行 国立国会図書館 2020年9月29日

編集 国立国会図書館国際子ども図書館
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

TEL 03-3827-2053 (代表)

URL <https://www.kodomo.go.jp/>

 **国立国会図書館**
National Diet Library, Japan

リサイクル適性®
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。